

平成 25 年度

第 28 回 **熊本市 P T A 研究大会**  
**報告書**

『生きる』

～今からを生き抜くためには～

平成 25 年 11 月 30 日 (土)

熊本保健科学大学

熊本市 P T A 協議会

# 平成25年度熊本市PTA研究大会

## 大会テーマ

### 《『生きる』 ～今からを生き抜くためには～》

今日、子どもたちをとりまく社会環境には、いじめ問題等多くの課題があります。その中を生き抜くためには、真の生きる力を身に付けた子どもたちの育成が必要と思われます。併せて、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちを守り、思いやりや感謝の気持ちを持った子どもたちを育てていかなければなりません。

今からを生き抜く子どもたちのために、私たちが共に学び、子どもの模範、憧れとなる行動を示すことが不可欠と考えます。ぜひ、この大会で大人（親）の背中を見せるために学び合おうではありませんか。

その結果、親を追い越し子どもの背中が見えるようになれば最高です。追い越した後、振り返ることもなく、背中が見えなくなってしまうような成長ではなく、手を引いてくれる成長を期待して・・・

- 1 期 日 平成25年11月30日（土）
- 2 場 所 熊本保健科学大学 全体会：アリーナ  
第1分科会：3110 講義室  
第2分科会：50周年記念館  
第3分科会：アリーナ
- 3 参加者 熊本市PTA会員（教職員・保護者） 約700名
- 4 日 程

- ・ 受付 12:15～
- ・ 保健科学大より 13:00～13:10
- (1) 開会行事 13:10～13:40

- ① 国歌斉唱
- ② 主催者あいさつ 熊本市PTA協議会会長 上田芳裕
- ③ 来賓祝辞 熊本市教育長 廣塚昌子 様
- ④ 来賓紹介

- (2) 全体講演 13:40～14:40
- 講師 フリーアナウンサー 池田 美保 氏
- 演題 「生きる」それは対話力 ～子どもと共に対話力を育むためには～

———— 会場移動・休憩 14:40～15:00 ————

- (3) 分科会（分科会ごとに終了解散） 15:00～16:00
- ① 不登校と私と未来 福岡県立八女工業高等学校 教諭 平川三成 氏
- ② 双林とSNS時代の情報リテラシーとは ～ネット社会で生き抜く子どもたちを育てるためには～  
熊本市立総合ビズ 専科 桑崎 剛 氏
- ③ 落ち着きがないにはわけがある ～感覚統合(療法)の視点を用いた理解と支援のありかた～  
熊本保健科学大学 作業療法士 森本誠司 氏

## 【全体講演】

演題：「生きる」それは対話力 ～子どもと共に対話力を育むためには～

講師：池田美保 氏（フリーアナウンサー）



コミュニケーション能力の低下が指摘される中、放送現場や様々な環境の学生たちと接することで今実感されていることや、アナウンサーの仕事を通して感じる「音声表現の大切さ」についてお話しされました。

講師は、熊本市出身、元エフエム熊本のアナウンサー。現在は福岡を拠点にフリーアナウンサーや、ラジオ番組のディレクターとしての仕事を中心に活動しておられます。

皆さんこんにちは。

今福岡や長崎でラジオのアナウンスの仕事をしております。もしかしたら聴いていただいたことがある方がおられるかもしれません。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私たちは先ほどのように、突然人前で話すことも出てくるわけですが、いかがですか皆さん、会話は苦手だと思っている方が多いのではないのでしょうか。会話をするという事は難しいですね。

今日は「子どもと共に会話を育む」という大きなお題をいただきましたが、会話とは、どういう意味でしょうか？辞書では「向い合って話すこと」とあります。最近向かい合って誰かと話しておられますか？お子さんと？ご主人と？話し合っておられますか。

なかなか時間がなくてね・・・「今日ご飯は？」 「いらん!」、こんな会話になっていませんか。

自分はコミュニケーションをとるのは苦手だと感じている方が多いのではないのでしょうか。自慢ではありませんが、私も人見知りで苦手です。音楽番組を担当しているので沢山の歌手に会いますし、仕事柄、多くの人とのかかわりが多く、しゃべる機会も多いのですが、苦手です。

コミュニケーションは技術です。技術さえ、ポイントさえ身につければ誰でも楽しくコミュニケーションをとることができるのです。そのポイントは、結論から言うと、どれだけ相手のことを考えるか、ということです。つい、自分の言うことをうまく伝えたい・・・と考えてしまいがちですが、そうすると自分のことばかりで相手のことを考えないということになります。本当は、相手が何を求めているのか、この質問をすることによって何を話したいと思っているのか、そのことに集中すれば話がどんどん弾んでいくのです。

なぜ私たちはコミュニケーションをとるのでしょうか。人と仲良くなりたいから、それとも、自分が思っていること考えていることをきちんと伝えたいから？。自己主張をする、時には感情を伝える、自分が何を望んでいる、そのことに対してYesなのか？Noなのかを伝えるため？。

随分前「NO といえない日本人」と言われましたが、いまだに日本人ははっきりものを言うことができません。何を望んでいるかを言うことが非常に苦手です。なぜ？喧嘩したくない？人に嫌われたくない？こういった感情が日本人には強いと言われています。でも本当は自分の意思を伝えてこそ深い付き合いができるものと思うのです。要は伝え方なのです。

コミュニケーションを上手にとるためにはコツがあります。コミュニケーションの授業ってありましたか？コミュニケーションは特に習っていないのです。昔だったら周りの環境から学ぶ機会がありました。中でも多

くの人が学んできたのは親から。自分の親のコミュニケーションのあり方を受け継いでいる・・・それが今のあなた、皆さんです。ですから「うちの子はあまり・・・」・・・源はあなたです。お子さんたちは親のコミュニケーションのとり方を受け継いでいるわけですから。

過保護の親に育てられた子どもと、コミュニケーションがとれない親に育てられた子どもには共通点があります。あることが同じようにできない。それはあいさつ。あいさつができないのです。「ありがとう!」、「ごめんなさい!」肩がぶつかって、「あっ すみません!」 その一言が言えないのです。なぜなら、あいさつというものが非常に大事だという意識を持たないで生きているから。もともとコミュニケーションをとれてない家族だったらあいさつができないかもしれません。しかし、溺愛している親の場合はどうしてでしょう?・・・それは、すべてを親が先に言うってしまうから。子どもは言う必要がない状態で育ってきているのです。だから、自分で自立した時もそんな意識がわからないのです。「ありがとう」と言わなければいけないとか、「ごめんなさい」と言わなければいけないということが意識の中に入っていないのです。

あいさつ、これは家庭の中で社会を意識する最初のきっかけです。人と人との繋がりはまずあいさつからです。それができないなら、コミュニケーションをとれる子どもにはなれません。エレベーターの中で一緒になった時、あいさつができない子。でも心が優しいのでオープンボタンを押してくれます。そのときに大人がちゃんと声をかけているでしょうか?私は「ありがとう」と必ず言います。そうすると子どもは、恥ずかしくて言えない子もいれば、「どういたしまして」と言う子もいます。そして「じゃあね、さよなら」と言ったときに、あっ、その一言でいいんだ、この一言を言わなきゃいけない空気なんだ、ということに気付くことが社会との繋がりを感じ始めたということです。

人と人との繋がりはあいさつから始まります。何で「おはようございます」、「行ってきます」と言わないといけないのかを話していますか?訳を話す必要があります。「社会と繋がることはとても重要な意味を持つんだよ」ということを一度でいいからお子さんにお話してみてください。きっと子どもは変わると思います。時間はかかるかもしれませんが、そういうことなんだ!だからあいさつをするんだ!と感じてもらえるのではないかなと思うのです。

私は月～金までFM福岡でラジオの生放送を担当しております。昼前からの放送で、おはようなのか、こんにちはなのか、いつも迷います。担当のディレクターと相談し、「お昼前からこんにちは」ということにしました。毎日「お昼前からこんにちは!池田です」と言ってお話を始めます。

その番組を担当し始めて15年が経ちます。毎日毎日「こんにちは!」と言っていますが、1度として同じ「こんにちは」はないな、と感じています。それはラジオを聴いてくださる方が毎回違う環境で聴いてくださっているからです。どんな気持ちか、どんな場所か、もしかしたら大事件が起きた朝かもしれないし・・・その時の状況によって「こんにちは」の言い方は違ってくる、そう思って毎日自分の言葉をラジオから電波に乗せるようにと思っています。それをしなくなったらだめだな、と自分にも言い聞かせているのです。

私がなぜラジオ局の局アナになろうと思ったか。テレビとラジオの大きな違いは、テレビは夢をみてもらう、そして多くの人に発信するもの。ですから「皆さん・・・」と投げかけます。一方、ラジオは「あなたは・・・」で始まります。非常にパーソナルです。そこが私は好きなのです。そして本音を伝える仕事だということ、そこに心を引かれて試験をうけました。しかし、怖さもあります。確かにラジオは声だけです。声だけですけれど、その人の性格とか感情がとても伝わるものなのです。皆さんもしっかりラジオと向き合ってもらおうと発見が必ずあるでしょう。話している人の性格が声に出ます。だから、怖いな!と思いながら仕事をしているのです。

声というものは非常に人柄を表すし、感情を伝えるものです。本当に頑張ってね、と思った時には「頑張ってね〜！（力をこめて）」 怖いほど伝わってしまうのです。私が自分自身で実感しているのは、声というものの大事さ、音声表現というものがとても大事だ、ということです。同じ言葉でも声の表情で伝わり方が全然違います。例えば、お子さんが「今日ね、〇〇なことがあったんだよ」と話してくれた時、「あーそうだね（沈んだトーン）」とつまらなそうに言うのと、「あーそうだね（弾んだトーン）」とは違いますよね。同じ言葉でも表現次第で伝わり方が全然違う。お子さんとの会話でもあります。こちらが、「あんたのことを心配して言いよるとよ」と言っても、世間体で言っている言葉なのかどうなのかが、お子さんにはお見通しなのです。本当に自分のことを心配してくれている、あんたのことを心配してなのか！あんたのことを通して私がどう見られるかが怖いから言いよるだけなのか！わかってしまいます。だから音声表現はとても大事なのです。その音声表現の中でも声は非常に大事です。

5つのポイントは声の大きさ、高さ、速さ、間のとりかた、声の表情（声色）です。この5つによって皆さんのコミュニケーションのとり方が変わってきます。

- 1 大きさ 広い場所での話と二人だけの話はもちろん違うべき。単に大きければよいわけではありません。聞き取りやすい声の大きさは、5m先の人にきこえるくらいです。
- 2 高さ 声の高さを落とすことで、信頼度が増すものです。ニュースを読むアナウンサーは声を落とします。これは大事なことだよ、ということをお話するときは普通よりちょっと低めにするとそう聞こえるのです。心理的に。
- 3 速さ 目安として、「こんにちは」を0.5秒で。プロは早くしゃべっても分かりやすい伝え方を学んでいます。
- 4 間のとりかた 早口の人、間のとりかたを広くすればよい。「ご飯食べた？」〇〇「今日はね・・・」この〇〇（間）の間にまわりの人が振り向く。間の取り方で聞こえ方が変わります。そして自分自身も間をとることによって落ち着く。ちゃんと伝えないといけないことを冷静に見ることができるのです。

ところで、「話し上手は聞き上手」という言葉があります。どうやって聞けば相手が自分のことをオープンにしてくれるでしょうか。

4つのポイントは、「うなずく」、「相づち」、「相手の言葉を言い換える」、「繰り返す」です。

「相づち」はタイミングを見ていないとできません。相手が話すのに心地良いタイミングで入れるのが大事です。相手のテンションに合わせてあげることです。これは高度なテクニックが必要です。例えば、「学校行事でこんな事があって悩んでるんだよ」～「なるほど、クラスでの問題なんだね」、と要約して次に返してあげること。あなたが言いたいことはここだよ！とポイントを押えてあげることです。

「繰り返す」とは、相手の言った言葉、単語、文章等を繰り返すこと、「今日は、体育祭の練習があつてね」・・・「体育祭の練習が・・・」と言ってあげるだけで、聞いてくれているんだなと思ってくれます。

お子さんと話をする時、（何かしながらでも）、身体はちゃんとお子さんの方を向いていますか？。見るだけでなく顔だけでなく、身体が向くと全く相手の印象が違います。必ず身体の向きも変えてください。そうすると、今あなたが主役ですよ！となる。身体の向きを相手に向けるだけでも 聞いてるよ！と言う気持ちが伝わる。話をしている人は、全身で聞いてくれているかどうかをずっと感じ取ることができます。

皆さんも経験がおありだと思います。相手が気持ちよく話すことができる人が「聞き上手」。情報を色々知っているとかじゃない。いかに相手が気持ちよく話せる環境にするかができる人が「聞き上手」。その場合には、相

手に心を開いてもらうまでは相手を否定しないことです。相手が気持ちよく話せる環境をつくることをまず意識することです。

言葉にはならない言葉を感じ取る、言っている言葉だけじゃなくてその裏にあることば、言えずにいる言葉に耳を傾けることが大切です。大人ですらしゃべることが難しいと感じるのに、ましてや人生経験が少ない子どもが完璧に喋れるはずがありません。自分の気持ちをきちんと伝えることは難しいものです。この子は何を言いたいのだろう？ 手伝って引き出してあげよう、ということを頭の片隅に置いて頂けると変わってくると思うのです。時間はかかると思いますが・・・。

自分で授業を持たされている立場で非常に感じた事がありました。『待つ』って大事だなと思ったことがありました。

トークスキルの授業で一言も喋れなかった子がいました。自分の一週間の行動をみんなの前でスピーチさせる授業で、名前を言ったきり何の言葉も出てこないのです。そんなとき、できる限り待ちます。ただし無音状態にはせず、こちらから質問をしていきます。「今日は何時に起きたの？」から始めて、全部は手伝いません。最近では体言でものを言う癖がついている人がいます。「その饅頭はどこで買ったの？」・・・「駅！」。「中には何が入ってるの？」・・・「あんこ！」。「あんこが入ってる。」と言えないのです。周りが「あんこが入ってたんだ。」と先に言ってしまふ。

きちんと言葉と話さなくても、それでも言葉は伝わって行く。かわいそうだと思うのです。



私たちがそういう世の中を作っているのだと思うことがあります。だから待つ事にしています。その子は授業が終わると、何も言ってないのだけど、ホワイトボードを消しに来てくれます。他の子たちが質問したり、喋っている中、黙って消してくれています。黙って消して、黙って去って行く。その時私は必ず「ありがとうね！〇〇くん」と言うようにしました。毎時間言っていたら、そのうちに教室に残っています。残っているのに声をかけられずにいるのがわかったので、他の子たちと喋っていても、「〇〇くん気をつけて帰りなさいよ！」と言うようにしたのです。最初は「オッス！」だけだったが、それが出ればよいと思っていたのですが、そのうちに目を見てお辞儀して帰るようになったのです。これだ！と思っていたら、さらに「失礼します」と言えるようになってきました。新学期に何も言えなかった彼が、そう言えるようになったのはもうセミが鳴く頃でした。この彼は本当に時間がかかりました。そうして、「失礼します」「気をつけて帰りなさいよ」という会話が続き、ホワイトボードを相変わらず消してくれていた彼が、「先生、今日の分からなかった」と言うようになったのです。「分からなかった、どこが分からなかった」と話をするようになってきたのです。「分からないのを恥ずかしいがな」といつも言うようになってきました。そのまま持って帰ることが恥ずかしいことだと。その頃から、少しずつ自分のことを話すようになってくれました。待つことはすごく大事だと思いました。こんなこともあるのだな、と彼が私に学ばせてくれました。とても感謝しています。

『私はあなたの話を聞きたいのだよ。』ということ『あなたに興味があるのだよ』ということが伝わるにはどうしたらよいかを考える事が対話することで大事なことと思います。相手と呼吸を合わせる、感情移入すると呼吸が同じになってくる。同じテンションで話をすると、『あー、わかってくれるんだ！この人は・・・』と思ってもらえます。同じ温度で声をかけること、聞き上手の人の言葉の発し方だと思います。相手の感情を感じ取る、そしてその人が何を言いたいのだろうと探るような質問をしていくことです。自分は口下手

だと言う人が、「今日はしゃべったな！もういっぺんあの人と喋りたいな」と思ってもらえる、そういう相手になれたら心を開いてくれるのは間違いないと思うのです。話す、聞く、これを親が身につけることで、子どもたちにもその姿勢が伝わっていくと思うのです。

家庭での会話は、客観的な説明を抜きにした感情の言葉です。ところが、社会での言葉は違います。社会は他人の集まりです。挨拶をするといった入口から入らなければなりません。家庭での会話は、感情からどんなに大喧嘩をしても、「ご飯よ！」の声で並んでご飯を食べられます。それは肉親だからで、これが会社の上司だったらできませんよね。感情が全く別の世界が社会です。社会が求めている言葉を感情で話をする会話の中で求めてしまうと、子どもはわからなくなってしまうのです。その辺を分けて話さないといけません。「今みたいな話をするよ、お母さんはわかるよ。お母さんはわかるけど、それを学校の先生に言ってもわかんないよね」という具合に、他人に説明する仕方を教えてあげないといけないと思うのです。

最後に自分の思いを伝えることについて。まず自分を知る、自己分析をすることです。就職試験の面接で自己PRが重要になっています。他人は自分の鏡と言いますが、学生同士で自分の良い所・悪い所を出し合うのです。その中で、短所を長所に変えてみます。「飽きっぽい」を言い換えると、「新しいものに挑戦する」、「細かい事にこだわる」を言い換えると、「記憶力が良い」。短所もプラスの意味に引き出すことができるのです。それによって自己PRできる部分を見つけていくのです。

教え子が立派なキャビンアテンダントになり、羽田福岡便で担当してくれました。その子の上司が到着間際に席に来てくださり、「彼女は真剣に働いていますよ。今日は先生が乗ってらっしゃったので緊張してましたが、張り切っていましたよ。」と言葉をかけてくださったのです。この子は上司とうまくコミュニケーションとれているな、きちんと自分の職場でも意見が言えて、そしてかわいがってもらえているんだな、と教えてとてもうれしかったです。コミュニケーションとは、仲良くなるとか、一つになることと思いがちですが、本当は、『私とあなたは違うのだ』互いが違うということを理解することだと思うのです。違いがわかれば歩み寄れるのです。

今日は会話力ということでしたが、向かい合って話すこと、それは人が皆自分と違うから。自分の考えが相手に伝わるためにはどうしたらよいかを感じ取ることから始まります。同じ考えにするためじゃなくて、相手を知るための会話、それが会話だと思います。一人では生きて行けない世の中です。会話をすることで、相手がいる、自分と違う人がいる、違う価値観があるんだということ、そして歩み寄るということを感じていくのが人生の喜びなのかなと思っています。

今日は長い時間お話を聞いていただきありがとうございました。



## 【第1分科会】

演題：不登校と私と未来

講師：平川三成 氏（福岡県立八女工業高等学校教諭）



小学2年から中学卒業までの8年間、不登校となり家にこもる毎日。友達への劣等感や不安いっぱいの中、母親からの勧めで全日制高校へ進学。新しい環境での先生方や友達との出会いに人の大切さやありがたさを感じ、一生の宝物となった。

高校時代「教師になる」と冗談で言ったことを恩師が後押ししてくれ、教師を目指していき……実現された26歳の高校教諭による実体験に基づくご講話です。

講師は、現在、福岡県立八女工業高等学校の教諭として活躍しておられます。

### <はじめに>

現在27歳で、昨年結婚。来年3月には第1子誕生の予定。

教職員採用1年目で初任者研修中の身である。いろいろと研究発表が忙しい中、指導教諭の後押しもあり、今回の講演依頼を受けることとした。

### <不登校の現状紹介>

現在、全国の不登校児童・生徒は小学校で21,175人、中学校で91,079人。理由の1位は「不安・情緒的混乱」、2位「無気力」、3位「友人関係」。もし、皆さんのお子さんが学校に行きたくないと言い出したらどう対応するか？私は、心中ではもちろん行ってほしいと思うが、「行かなくても良い。」という。まずは子どもの安心感を確保してやるのが大事であると考えている。

### <私の不登校の原因>

私自身、はっきりとした原因を覚えているわけではなく、母にも当時のことをたずねてみた。まずは幼稚園でいじめに遭い、移った先の保育園ではいろんな行事に能力的についていけなかった。先生にしかれることもあり、だんだん自信を失っていった。人一倍不器用であったため、小学校でも宿題や行事参加に対する不安感が増して行き、学校に行くのがいやになった。不登校の間、友人らの「ずる休み」、「毎日休みでいいね」といった言葉が伝わった。

### <家庭環境>

母子家庭の3人兄弟の末っ子として育った。母と離婚した父の記憶もあるが、その父に対する思い入れは特になかった。悲しいそぶりでも見せておけばよいのだろうと思った程度。

次男は中学1～2年の間、引きこもり生活を送った。2年間、家族ですらほとんど顔を見ることはなかった。部屋の前に母が食事をおいておくと、人気がなくなってからそれを部屋に持ち込んで食べていた。トイレはどうしていたかだが、経営する旅館の造りから察するに、次男の部屋から直接、隣接する客室の押入れに抜ける扉があり、そこから部屋外に出ていたのだろう。そんな次男であるが、やがて、夜中に自室を出てきては旅館で使用済みの食器を自ら洗うようになり、だんだん家族の前に姿を現すようになった。きっかけは分からない



が、おそらく、自分も何かしなければと自覚したのだろう。母の勧めもあり大検に合格後、福岡大学に入学し、4年で卒業した。引きこもり生活の間、自室にあった父の膨大な書籍を読破し、それが基礎学力となっていたのではなかろうか。2年間のニート生活はあったが、現在は愛知県の水質管理会社に正社員として勤務し、難関の公害防止関連の国家資格も所持するまでになった。

長男は高校中退し、とび職を3年経験し、その後ニート生活を5年間送った。高級車を乗り回し、居酒屋ではやくざとけんかするほどハチャメチャであった。私の教職員としての就職が決まり、おそらくは自宅を出ねばならないだろうと考えたとき、母と長男の二人暮らしが大変心配になった。親族にそのことを相談した折、長男の意外な面を知らされた。母が離婚する際、「自分はどうなってもいいので、弟たちには不自由させないでほしい。」と頼んだらしく、長男のやさしさを垣間見た。

母はずっと旅館を切り盛りしてきたが、私が大学3年生の時にうつ病となった。仕事のプレッシャーが原因だろうが、現在は治療で落ち着いている。



#### <学校に行き始めたきっかけ>

高校だけは卒業しなければという自覚と母の勧めがあった。不登校という劣等感から、入学後半年間は不安でいっぱいであった。歓迎遠足では1人原っぱで寝ていた。毎日の昼食も1人で食べていた。しかし、担任の先生が安心な学校生活を送れるよう配慮してくれた。特に仲の良い友人は3名。”村長”はいわゆるいじられキャラだったが、明るく登校していた。”ダブりの先輩”は隣のクラスの同級生で暴走族の副総長をしていた。”イトウ”は母子家庭で、母は躁うつ病をわずらっていたため、祖母と弟と3人で暮らしており、アルバイトで学費や弟の小遣いを稼いでいた。学校生活では仲間の大切さと先生たちの優しさを感じた。

母校は私が最後の卒業生であり、その後、廃校となった。少子化による入学者数減少の問題もあるが、本当に必要な学校がなくなっていく寂しさ、残念さを感じている。

#### <バドミントンを通じて学んだこと>

力量不足は否めないが、加入者数が少なくなっていた当時の状況もあり、高校生ではあるが、伝統のある社会人バドミントンクラブに所属する機会を得た。しかし、それをよく思わない者もいたため、一生懸命練習し、くらいついていった。

会長は一見怖そうな人物であるが、大変お世話になった。練習の送迎でお世話になるばかりではなく、社会人クラブで大人と接する機会も多かろうと、礼儀や大人の遊び（本当はいけないことだがパチンコなど）も教わった。ただ、良い人ばかりではなく、悪い人との出会いもあった。社会について多くのことを学んだ。

#### <教師を目指したきっかけ>

本格的に教師を目指したのは大学4年になってから。居酒屋で高校時代の先生と飲む機会があり、そのとき、私が高校1年当時に「教師になる」と話していたことを覚えておられた。先生の「40人の生徒がお前を待っている」との言葉が、自分も役に立つことができるとの自信につながった。

書籍『1日30分を続けなさい』を参考に、勉強法を確立した。勉強する環境を整えた。また、飽きないように勉強する環境を変えるなどの工夫もした（ファミレスに行くなど）。テレビを見る時間を減らして勉強時間を

捻出した。毎日朝晩1時間、土日は6時間勉強した。

#### <母の存在>

いつもやさしく見守ってくれた。学校へ行けとは決して言わず、私を追い詰めるようなことはしなかった。やはり一番感謝しているのは母であり、「生き抜く力の基礎の基礎」であると思う。

インターネットの”2ちゃんねる”をご存知だろうか？あまりいい印象を持っていない保護者もおられるだろうが、そこに「両親への感謝の気持ちを書こう」といった内容のスレッドを見つけた。その中の母親への感謝の1文を紹介する。[中途退職し、親元に戻ってアルバイトを始めた若者の、母手製弁当を通じて思い知った母の愛情に対する感謝の1文を朗読。]子どもは面と向かっては言わないが、心の中では親への感謝の気持ちを持っているものである。

#### <私の未来>

まずは近いところで、初任者研修を乗り切る。そして来春には初担任を務めることになる。

いつになるかは分からないが、地元の大牟田に恩返しをする意味も込めて、ある夢を実現したい。それはバドミントンのクラブチームの立ち上げである。人と人とのつながりを通じて、若者に前向きな希望を持ってもらえるような場の提供をしたい。いろいろな人が集うことで、いろいろな相談や職場の紹介などができればよい。

#### <最後に>

「生きる」～今からを生き抜くためには～、それは人とのつながりが一番です。

## 【第2分科会】

演題：スマホと SNS 時代の情報モラルとは

～ ネット社会で生き抜く子どもたちを育てるためには～

講師：桑崎 剛 氏 （熊本市立総合ビジネス専門学校教頭）



生活に幅広く浸透してきたインターネットのサービスは、大変便利なものです。そして、ケイタイやスマホ、音楽プレーヤーなどの機器が子どもたちにも広がりつつある現状があります。しかし人間関係のトラブルやネット依存、犯罪に巻き込まれるなど課題も少なくありません。本日は子どもたちの最近のネット利用の実態を踏まえ、ネットとの正しい接し方や家庭のあり方について、納得のいくお話が伺えるものと存じます。

講師は、熊本市出身で東京理科大学を卒業後、数学教師として活躍され、情報モラル教育の実践家として、「ガイアの夜明け」のTV出演や内閣府・総務省・文部科学省において「子どものネット問題」における第一人者として、全国で公演活動を展開しておられます。

こんにちは、ご紹介いただきました桑崎です。私はもともと中学校の数学の教師ですけど、ある時に教員をやりながら2度目の大学生活を送ったことがあります。その時はネットの勉強に行きました。最初のWindowsであるWindows3.1が今からという時でした。ガラケーというのはガラパゴス携帯の略で、ガラパゴスというのは大陸から遠く離れて独自の進化を遂げた島です。ガラパゴス携帯は日本だけの独自仕様で、残念ながら世界標準ではないので尻つぼみになって、だんだん売れなくなってきて、今は日本でしか使われない携帯です。世界標準はスマホです。ガラケーからスマホへ転用するとは誰も思っていませんでした。ところが近年スマホに移行して、青少年も含め、沢山のいいこともあります。新たな課題も起き始めました。

子どもは発想力が豊かで、大人にないすごい部分があり、大人がそういう目を摘んでダメにしていく場合があるのではないかと、聞いた話なので真偽は分かりませんが、日本の子どもは二十歳になるまでに「ダメ」という言葉を親から100万回言われているという統計調査があるらしいです。アメリカの親は10万回程度しか言わない。褒めることがアメリカの親は多い。日本の親は「あれしたらダメ」「それ触っちゃダメ」「そこに置いたらダメ」「早く寝なきゃダメ」とダメダメを二十歳まで100万回連発する、これはあながち嘘ではない気がします。

今日私がお話したいのは、ネット社会はどのような特色なのか、ネット社会そのものについてお話させていただきます。その中で子どもはどう生きていくのか。その中で最も必要なことは何なのだろう。実はネットに関するテクニク的なことはあまりお話ししません。そういうのは重要ではありません。なぜかというと、機器はどんどん変わっていきます。LINEというアプリの使用者が先日4億人を突破しました。最初の1億人は1年半かかりました。次の1億人はたったの100日程度です。次の1億人はもっと短くて90日程度です。子どもたちはそんな普及しているアプリもよく使っていますし、実は会社でもよく使われています。でも、いつまで使われるかは分かりません。テクニクじゃなくて、それを使いこなす我々がどうあるべきか、ということです。

今年の2月頃、山陰地方で大雪が降りました。その時に立ち往生している中にコンビニの配送車が1台あったんですね。そこでこのドライバーは、もうコンビニに配送ができないと考えて、何時間も立ち往生してお腹を空かせている人たちに対して、積んでいたおにぎり等を配り、すごく有名になりました。昔だったら小さい新聞紙面で取り上げられて終わりですが、これが有名になったのは、自分の判断で人助けをしたドライバーがいたのを、Twitterで書いて拡散されたことです。たぶんこの伝播力は新聞以上です。その辺のマスコミの比ではありません。ただ私が言いたいのは、これはネットが上手に使われて美談が全国に伝わって、この会場の20名程度の方が知っている。何が言いたいかというと、このトラックには何百万円分もの商品を積んでいる訳です。ドライバーの判断で、そんなに簡単に無償で配れるものではないです。でもこのドライバーは、本社に確認は取りませんでした。意思を決定するに至った大きな要因があります。山陰地方の大雪の情報がどんどんTwitterで寄せられて、本来届けなければいけないコンビニの周辺がどういう状況か彼は分かったんです。自分が配送しなければいけない所が届けられない状況がTwitterで認識できたんです。ここで立ち往生し賞味期限が切れても仕方ないからこそ、本社確認せずに配りました。ネット社会の拡散はいいことも悪いことも伝搬力がすごいと改めて思います。

しかし、よいことばかりじゃなく、マイナスもあります。

子どもたちをめぐる環境で、高校生・大学生はスマホの利用が圧倒的に多いですが、小中学生利用はスマホよりも音楽プレーヤーだったりします。しかしそれはWi-Fiの環境に行けばスマホに変換します。そしてゲームもできるし無料アプリを入れれば電話もできる。つまりWi-Fiの環境に行けばスマホと何ら変わらない。このような商品はたくさんあり、どれもネットにつなげばほぼ同じことができます。小中学校とかで起こっているネットのトラブルは、ゲーム機や音楽プレーヤーで起こっていることの方が多く、スマホを持ってないから安全と考えるのは間違いで、ゲーム機や音楽プレーヤーも含めて考えていただいた方がいいのです。この辺の変化も最近急に起こったことですが、逆に学校裏サイトは激減しました。書き込みが減りました。しかし実態は特定のグループとかブログとか、限られた所に場所が変わったということです。また、出会い系サイトも激減しました。出会い系サイトで補導される子どもは減りましたが、出会い系サイト自体は、出会い系規制法もでき、加害者のほとんどは大人で被害児童のほとんどは未成年です。しかし、もともと未成年には許可されていないサイトですから、本来被害にあうこと自体がおかしいのです。実はいま最も問題なのは、非出会い系サイト、コミュニケーションがとれる所謂SNSというアプリでも事件が増えている現状があります。

さて「私と携帯問題のきっかけ！」ということでお話をさせていただきます。

朝1限目から保健室に来る生徒が増えたという養護教諭の指摘から、生徒の携帯電話の保有率と利用率を調べたら、当時でも結構あり、大変に驚いたものでした。そしてこの問題について、一番早くからいろんな形で提言しているのは、小児科医のグループでした。小児科医の学会で、メディアとの付き合い方は家庭でしっかりしたルール作りをと当時から提言しています。今まさにPTAをはじめとする多くの諸団体が言っていることと同じです。実はこの提言は2000年からで、こんな早い段階で保健や医療の関係者は提言していたのは驚きです。つい先だって、鹿児島市医師会の学校医と話をする機会がありまして、2~3歳児から大型ショッピングセンターなどで子守り代わりにスマホで遊んでいる光景を見るんですけど、幼児の頃からスマホで遊んでいる子は切れやすいという指摘が、ある小児科医からあったそうです。たぶん泣いたら我慢させるのではなく、すぐ安易にスマホを与えて子守り代わりにしている。そういうのが、我慢強さがなくなるという、あながち間違いではないと私は思いました。医療関係者もこのことについては、教育関係者以上にむしろ注目をしています。

ネット社会のポイントということで先に結論を言いますと、今までとあんまり変わりありませんが、ただし、「より」とか「さらに」ということがキーポイントだと思います。より人への配慮が必要であり、より人権的な視点や、より人とのコミュニケーション力が必要だと思います。より誠意も必要です。メールでやり取りするならば、より文書表現はしっかりしておかないと誤解を招きやすい。ネットだからこそ今まで以上に人と会って話すときには豊富な情報量が必要でしょう。

私の学校のリーフレット作りで表紙に登場する学生はポスターでも、ホームページのトップページでも登場します。取材をする時に、事前に了解をとりますが、だからといって直ぐに印刷したら大ごとになります。パンフレットに協力することにノーという学生はほとんどいません。ただし、特に表紙に写真を使う場合はもう一回集まってもらい、そのこと的了解をとります。パンフづくりの趣旨には賛同すが、その写真ではいや、他の写真を使って欲しいということがあるからです。印刷した後にクレームを受けたら大ごとになります。ホームページはすぐに写真の差し替えができるからいいのですが印刷物はそうはいきません。PTAの広報誌にも協力することにノーの人はほとんどいませんがこの写真でいいかと聞けば違う場合があります。そこまで配慮する時代でもあります。

さて、個人のスマホやネットというのは学校とは直接は関係ないんですが、将来子どもたちは生活をする上で、ネットやスマホを使うのは当然予想されます。賢い使い方ができるかどうかで人生が大きく変わります。さっきのドライバーみたいに、自分の判断で会社から表彰される場合、コンビニ自体が有名になり株価が上がることもありますが、逆に冷蔵庫に入って人生を台無しにするなどの例もあります。

電話機の歴史で今は第四世代でのマホの時代です。注目していただきたいのは、固定電話と携帯電話の利用率が逆転するのが2000年です。2000年にインターネットのサービスが普及し始めます。日本の社会では、2000年がターニングポイントになっており、それ以降いろいろなことが劇的に変化していきます。2000年はまた今の中学1年生が生まれた年です。彼らが物心がついた時は世の中では固定電話より携帯を主に使っていました。そんな時代で小中学校時代を過ごしてきています。全国調査での小学生全体の所持率は40%ぐらいで、高学年男子は40%で高学年女子が60%と、極端な男女差があります。中学1年生では、男子30%で女の子が50%。男女で20%の差があります。高校2年生ぐらいになると男女差がなくなります。小学生から高校2年生ぐらいまで女子の所持率が非常に高く、携帯の問題が女子に多いのは昔から言われていますが、所持台数が2割も違いますので、当然のことながらトラブルも起きやすくなるのは明らかです。



さて、スマホは前述の様に当初は売れないと思われていましたが爆発的に売れました。特に去年ぐらいから急速な伸びです。携帯会社はマニアックな人しか買わないだろうと最初は販売に力を入れていませんでしたが、普及した魅力は通話の他の豊富なアプリ、便利な機能が評価されたからかと思います。よく「手のひらに乗るコンピューター」とも言われます。スマホにとって通話するのは持っている機能の数パーセン



トで、画面が大きくて指での操作がしやすいなど、ただ電話するだけのガラケーと違って、生活にとっても便利という面も大きな評価です。

ところが、豊富なアプリの中で特に気になるのは、情報を発信したり受けとったりする、コミュニケーション系のアプリです。今までは情報は受けるだけでしたが、「発信する」ということが大きく違います。発信するというのは、自分を知ってもらふ素晴らしいことですが、逆に大きなリスクも伴います。そして、ネットに繋がれば地方も大都市も関係なく、むしろ離島ほどネットをよく使っているという現象もあります。この発信が可能なSNSのアプリでも大きな問題が起きている訳ですが、ネットの課題は「人間関係のトラブル」「情報の発信に関するトラブル」「健康面のトラブル」「情報セキュリティのトラブル」「経済面のトラブル」の5つが言えるのではないかと思います。特に子どもたちに心配なトラブルは、はじめの3つのような気がします。また、ながらスマホや歩きスマホ問題は最近多く、歩きスマホ禁止の条例を作る自治体もあります。

健康面の課題で、大きく分けて「心への影響」と「体への影響」の二つあると思います。体への影響では、電磁波が言われていました。しかし、今は病院のスタッフも使っているぐらいで、電磁波は最近あまり言われなくなってきました。他に気になるのはブルーライト症でベッドの中にスマホを持ち込んで、画面を見ているとだんだん興奮してきて寝つきが悪くなって睡眠時間が減る、眠る時に液晶画面を見るのは、好ましくないように感じます。また、視力障害もあると思います。

もっと気になるのは心の問題です。ネット依存は、大きく分けて二つに分けられますが、「コンテンツ依存」とは絶えずネットをやっているということで、もう一つは、こちらの方が気になるんですが、「繋がり依存」です。繋がり依存は絶えず誰かとやりとりをやっており、来たら返事を返す。小中高生は繋がり依存がとても多く、今、特に問題になっています。12時以降に寝る割合もスマホ所持者が多いというデータもあり、スマホによる繋がり依存が特色です。

それから人間関係のトラブルです。ネットいじめが昨年とても話題になりました。特にLINEでの既読トラブル、仲間外れ、誹謗中傷です。また、閲覧したのに返事を返さないことによる既読トラブルや、グループ内での人間関係のトラブルなど、高校生ではあまり聞かれない、小中学生ならではのコミュニケーション能力の低さからも課題もあります。世界で4億人が使っていて家族間の連絡など便利なのですが友達同士の利用では予期しないトラブルもたくさん起こっている現状があります。このアプリはもともと3.11の震災時に携帯電話が使い物にならなかったことから次の震災に備え、パケット通信で家族の安否確認をしようと考えられたものです。既読は震災時に家族が今は返信できないが見ることはした、生きてはいると、もともとその為に考案された機能です。まさか小中学生間で、読んだのに返さないというトラブルになるとは開発者は思いもしなかったと思います。世の中でアプリの開発意図と現実の使われ方が違うことが多々あります。LINEのトラブルは、しっかりした言葉や文章ではない、簡易なやり取りなので、トラブルが起きやすいという側面があります。また、小学生に多発するのが仲間外れで高校生に限ってはレアなケースです。しかし逆に高校生にもなっていじめを引きずっているというのは非常に心配なことです。

さて情報発信のトラブルですが、冷蔵庫の中で寝てみたりなど、昨年はいろいろな良くない発信で問題になりました。そして、写真に写っている個人は、住んでいる住居や名前まで特定されています。小学生の時に野球少年だったということまでネットに書き込まれているケースもあります。ありとあらゆる個人情報晒され

ます。学生の彼らがおじいちゃんになってもネット上に半永久的にあり続ける。ネットに時効はないことを肝に命ずるべきです。学校を卒業して就職活動をして、ほとんどの会社が名前でネット検索する時代です。自分の就活にもがダメになることさえ想定されます。ネットを甘く見て、不適切なことをすれば、時効がないため、一生引きずることになります。

しかし、チェーンメールの内容を真に受けて転送する人は極端に減っています。これは教育の成果かなとも思います。また、LINEを有効に使い高校生が地域住民を救ったという事例も発生しました。昨年の山口の大洪水の時ですが、女子高生がグループで情報を流し、地域の年配の方が助かりました。そしてその様なローカルなニュースは、大手マスコミは取り上げませんが、スマホによるネットの情報拡散ある意味、凄いことだとも言えます。

ネット機器を上手に賢く使っている人はネットスキルが高いと言えますが、その下地にはコミュニケーションスキルが高いとも考えられます。小さい頃からの親との会話がしっかりあり、会話能力が高いとも言えます。残念ながらネットスキルの向上に特効薬はありませんので、各ご家庭で時間がある時に「携帯やスマホが禁止されている場所や場面」をなぜかと議論をしていただきたいと思います。親子の会話にもなり、スマホ利用を考える良いネタにもなります。

「ママ聞いて。スマホするより私の話！」栃木県のPTAで1位になった作品です。このような標語が選ばれること自体、問題です。

さて、家庭でのルール作りの一つの例として、「スマホやネットの利用は子ども部屋ではなく居間でさせる」というのがあります。居間は親の目が届きやすく子どもの把握が出来ます。アメリカのFBIが全米の保護者に同じことを推奨していました。また、もっと大事なことは、ルールも大事なのですが、「子どもと話し合っただけでルールを作っているか」どうかです。親が勝手に作って押し付けていたのでは守れるはずがありません。「子どもが守れるルールになっているか」にもつながります。また、ルール違反が明確なルールか、ルールを気分次第で運用していないかどうかでも大事です。さらに、違反があった場合、「次はどうすれば違反しないかを子どもと一緒に考える」など、前向きで子どもとともにネットに対して向き合う姿勢が最も肝要だと思います。これらを親子でしっかり取り組めば、ネットスキルの高い子どもに育つのではないかなと思います。

小中高の思春期は色々変化の激しい微妙な時期です。子どもの変化に敏感であって欲しいと思います。スマホと急に距離をおいたり、スマホやケータイの話を急にしなくなるとか、急にビクビクするとか、このようなことがある場合、何かトラブルが起こっています。そういう子どもの変化をしっかり見抜いていただきたいと思います。自発的にコントロールできるように育てることが最も大事だとつくづく感じています。親の役割として、見守ってあげて、SOSを発してきた時にどうするか、そこが大事です。ネットの知識より基礎となるその部分が親としての出番です。そして、予防的な家庭のコミュニケーションが一番のフィルタリングとなります。

熊本市の子ども達が、ネットを有効に使い、社会を変えるぐらいに育ってくれればと思います。

長い時間ご清聴ありがとうございました。



## 【第3分科会】

演題：落ち着きがないにはわけがある

～感覚統合(療法)の視点を用いた理解と支援のありかた～

講師：森本誠司 氏 (熊本保健科学大学作業療法士)



子育てをしている中で、「なぜ、こんな行動をとるのだろう?」「これってうちの子だけ?」「個性なの?」などと思うことはありませんか?

その「なぜ?」を分析しながら、作業療法士というリハビリテーションの視点から対応や寄り添い方などを提案されます。

講師は、熊本保健科学大学大学院 保健科学研究科 保健科学専攻修了後、熊本保健科学大学 リハビリテーション学科講師としてご勤務。専門分野は「発達障害領域に対する作業療法」です。数々の著書・論文を発表。また、各方面の学会活動・社会活動と幅広く活躍しておられます。

### 1 子どもたちの「心配な行動とは」

授業中離席する、動きが激しい、乱暴である、授業中いすをカタカタさせる、集中力がない・・・

子どもたちの気になる行動を分析する糸口として、感覚統合を紹介します。

### 2 感覚統合とは

目からの情報、体の傾き、関節や筋肉の感覚、皮膚の感覚など・・・

すべての感覚刺激を適切に処理し適応行動に結びつける際の脳の中でのプロセスを、感覚統合と言います。感覚統合は、日常あらゆる場面で活かされています。

例) 話しかけられたら相手を向く、枠の中に文字を書く、体操を覚える、飛んできたボールをキャッチする。

感覚統合療法は、アメリカの作業療法士エアーズにより考えられた学習障害児の治療として発展してきた理論です。治療にあたっては、子どもたちの快反応と内的欲求を重視しています。

### 3 「感覚」とは

感覚統合のうち、特に重視される感覚が、三つあります。

- ・前庭覚…体の傾き・バランスを感じ取る感覚です。覚醒とつながります。
- ・触覚…皮膚感覚。情緒の安定と深い関係を持っています。
- ・固有受容覚…目隠しをしていますが、歩き・動くことができるように、自分の体の状態を掴み取る感覚です。

### 4 感覚統合では発達をどのように見るか

感覚統合では、感覚がいくつか組み合わさって脳で適切に処理され、最終産物として適切な行動ができる、と考えます。子どもたちはいろいろな経験・いろいろな能力を積み上げていった結果、適切な行動ができるようになっていきます。

例) 無意識に座った姿勢を維持する。座りなおすために、考えていたことをいったん休止する。

無意識にできることは、子どもの発達にとって、とても重要なことです。学習がうまく進まない場合、無意識の部分

の感覚を処理できるように工夫する必要があります。

## 5 姿勢の問題への対応

座り続けることが難しい子どもを例に、授業の合間にバランス活動を入れている学校があります。椅子の座面に滑り止めマットを取り付けて、ずり落ちにくくする方法があります。マットなどを使用するにしても、お子さんの了承を確認してからにしましょう。

## 6 気になる行動別の問題解決の糸口

### ・乱暴の原因……鈍感さ・敏感さ

力加減を感じ取る固有受容感覚を処理できていない場合、本人は軽くたたいているつもりが強すぎる、周りの子どもからは乱暴と受け止められることがあります。また、皮膚感覚が過敏で、ふれあいが苦手なため、じゃれあいの中で我慢の限界を迎え、噛み付くなど自己防衛的に乱暴を働いてしまうお子さんがいます。

### ・多動・集中力がない原因……前庭覚・固有受容感覚の問題

前庭感覚や固有受容感覚の反応性が鈍いお子さんは、刺激を求めて動き回ってしまう傾向があります。また、低緊張で姿勢を保つのが苦手で、姿勢維持に意識が向いてしまうお子さんは、周囲からは、話を聞かずに注意がない、と受け止められることがあります。

さらに、不器用さがあり、手指を動かしたり運動するのが苦手なお子さんの場合、難しく課題をあきらめてしまうため、これも集中力がない、とみなされることがあります。

## 7 注意欠陥/多動性障害について

### ・注意欠陥/多動性障害の型

#### ジャイアン症候群…多動・衝動型

落ち着きがなく動き回る。やりたいことを抑えられないタイプです。

#### のび太症候群…不注意型

ぼーっとしている。話を聞いていない。やっている途中で集中が途切れるタイプです。

どちらかの型だけでなく、両方を併せ持つ混合型のお子さんもあります。

### ・多動・衝動性

アクセルとブレーキを例にとり、子どもたちの多くは、欲求に対して理性でブレーキをかけることができますが、ADHD の子どもたちは、ブレーキが効きにくいお子さんたちだということです。

### ・ワーキングメモリーの問題

子どもたちは、先生の話聞くように耳を傾けた後、話が続けている間は注意を維持することができます。ADHD の子どもたちは、一瞬注意を向けた後、別のことに意識が向いてしまい、記憶し続けることが難しいです。

### ・ADHD 児の感覚統合の問題

必要な刺激に集中し、不要な刺激に注意を向けないようにすることができず、感覚刺激に対する閾値(いきち)が高く、過剰に刺激を求めてしまいます。協調運動が苦手で、不器用なため、課題がうまくいかずますます

集中できないという傾向があります。そのため、周囲からは、ふざけている・しつげがなっていない・からかいの対象とする、といった誤解を受け、課題を抱えやすくなります。

## 8 学校において感覚統合の視点を活かす方法例

### ・作業記憶や注意配分の苦手さに対して

自分自身の行動を思い出せるよう、事実を確認する機会を作ります。

ルールを確認し、思い出しやすくする。

ルールを視覚的に提示する教材や環境を用意します。

例)〇〇君の使ってよい紙、とロッカーに掲示する。



### ・視覚と聴覚

聴覚は、ながらがででき、簡単に準備できます。

しかし、すぐに消えてなくなり、聞きなおし、思い出し、見直すことができません。

視覚は、ながらはできず、集中しないと見ることはできません。

そのため、行動・情動調整に使いやすいです。

視覚を用いた教材の場合、モノがありますので、いつでも見られ、複数の情報を同時に提供できます。ただし、準備には時間がかかります。

### ・聴覚過敏への対応

スピーカーやピストルなどの音に過敏な反応を示すお子さんがいます。

ピストルを笛や旗に変えたり、イヤーマフやノイズキャンセリングヘッドフォンなどの使用で対応できることがあります。ただし、ヘッドフォンの使用にあたっては、依存してしまう可能性があるため注意が必要です。

### ・感覚探求に対して

動きたいという欲求を持つ子どもに対して、やめさせるのではなく、環境を工夫することで対応できる場合があります。

休み時間に十分に運動できるようにする。

保健室で5分だけ体を動かして戻ることを認める。

授業中・授業の合間に、高い位置の黒板消しを行うなど体を動かす時間を作る。

廊下に問題の回答を掲示し、合法的に離席できる機会を作る。



### ・手の運動問題への対応

手先を使う、はさみや筆記具を上手に使えない子どもに対して、途中まで図工を手伝い、最後の仕上げを子どもが行う。

持ちやすい鉛筆、ホルダーを用いる。

升目のついたノートを使う。

など、できたという成功体験を強化するように工夫しましょう。

・支援方法を考える上で

発達の状況、本人の持っている感覚の特徴、クラス・学校・先生の状況が関係するため、「こうすればよい」というマニュアルはありません。その状況に適した、その子のためのフルオーダーのプログラムが必要となります。できたという成功体験を積み重ねると自信を持ち、子どもたちは成長することができます。

ご紹介した感覚統合の考え方を子育てにご利用いただければ幸いです。

---

## 平成 25 年度教養委員会

---

### 【担当 南区】


代表幹事 市P副会長 坂本 隆生（力合小学校PTA会長）  
教養委員長 本田 公司（下益城城南中学校PTA会長）  
教養副委員長 寺本 隆（日吉東小学校PTA会長）  
市P担当任理事 堀川 光江（日吉中学校市P担副会長）

---

### 【教養委員会担当単P】

中央区：川原 智子（出水小）	渡邊 稔晃（西山中）	鶴田 裕介（竜南中）
島崎 真（一新小）	中里 成寿（春竹小）	三角 研次（向山小）
東 区：宮原 勇（健軍東小）	椎葉 舞（託麻東小）	前田 憲良（託麻西小）
緒方 博幸（秋津小）	山内 一徳（桜木東小）	大石 宝予（錦ヶ丘中）
西 区：牧 勇次（城山小）	西田 智史（池田小）	大田 博喜（井芹中）
江森由利子（高橋小）		
南 区：村上 義徳（日吉東小）	山室 尚昭（力合小）	塚本 和美（城南中）
倉岡 秀邦（杉上小）	永石研太郎（隈庄小）	奥田 美保（豊田小）
林田 美紀（下益城城南中）		
北 区：邊牟木尚美（城北小）	椿 由希子（弓削小）	長野 史郎（北部東小）
青木奈穂美（清水中）	今井智代子（植木北中）	

### 熊本市PTA協議会事務局

☎860-0843 熊本市中央区草葉町 5-1 中央公民館 2F  
Tel 096-356-1122 Fax 096-351-2309  
HP 熊本市PTA協議会   
E-mail info@kumamotocity-pta.net